



仲田種苗園 スタッフ

## ● 維心伝心

「県外の人だけに  
発見してほしい」  
と思いを語った。

話すのは、仲田種苗園（石川町）の社員薬谷里美さん（33）＝写真。同社が販売している「野の花マツト」に寄せ植えする県内の花、野草の生産管理を行っている。マツトは一時、風評被る地元の人も魅力を再発見してほしい」と



「福島デンfukushimaの自然a」を5月にオープン、を、もつと見てほしい」と薬谷さんは、ガーデン

県内外に福島  
自然をアピール

害の影響で売り上げが減少。状況打開へマツトなどを使った「野の花ガー

福 島 民 友

2013年(平成25年)10月20日(日曜日)

# 現場力

仲田種苗園



2014年(平成26年)8月24日(日曜日)



石川町

岩谷 節子さん(49)

石川町の仲田種苗園で県内在来種の花や山野草を植栽する「野の花ガーデン」の管理を担当している。

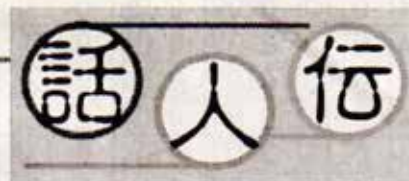
同ガーデンでは、オミナエシが見ごろを迎え、来月からは秋の花も楽しめる。オープンした昨春から担当で「色の調和など

## 本県の魅力 花でアピール

山野草のいろいろな魅力を発見した」と話す。今夏は県内外から多くの来場者が訪れた。植物の特徴などを説明し、本県の自然を知ってもらったという。

現在、フェイスブックなどでガーデンの魅力をPRしている。「福島的美しさを発信していきたい」と意気込みを語り、アピールに余念がない。

2014年(平成26年)4月16日(水曜日)



石川町・仲田種苗園従業員

小林 奈穂さん(18)

「小さいころから花に関わる仕事をしたかった」と話すのは、4月に石川町の仲田種苗園に入社した小林奈穂さん(18)。「この花がいいなと思ったらしながら書いています」。通常業務と併せ、花の成長具合などを紹介

## 夢だった花に関わる仕事

する同社のブログも担当する。

白河市出身。小学5年から高校までバドミントンに熱中。現在も同市内のクラブチームに所属している。「好きな花は桜。今が楽しい季節」と笑顔を見せる。

多くの植物を扱う仕事だけに「花の名前を少しずつ覚えること」が当面の目標だという。



柿畑 弘志さん 40  
(仲田種苗園主任)

石川町の仲田種苗園主任の柿畑弘志さん(40)は、同社が全国に出荷するモミジやヤマボウシ、アオダモなどの植木の生産・管理を担当している。

川崎市出身。自然を相手にした仕事をやりたいとの



「今後は若い人にも技術を伝えていきたい」と目標を話す柿畑さん

## 紡ぐ未来

# 植木の技術伝えたい

思いで、県農業短期大学校を卒業し、同社に入社した。通常は同町の鷹ノ巣公園で業務を行っている。

東日本大震災発生後は、県外の人から「県産の樹木を使えるか」という問い合わせ

## 安全な製品提供を徹底

わせが多くあった。樹皮を高圧洗浄したり、頻繁に線量管理し、正確なデータを提示する事で、安全で安心な製品提供に徹底した。「自分も完全に納得する形で売れたかった」と当時を振り返る。また、風評被害払拭へ、県外のイベントにも積極的に参加した。

今の業務は柿畑さんを含め2人で行っている。「自然は人間と切っても切れないもの。業界も後継者不足が課題。今後、若い人に技術を伝え、福島を自然を多くの人に知ってもらいたい」と、今後の目標を語った。

ふくしまの明日を見つめて



# みんゆう随想

弊社は農業生産法人である。福島県里山植物を独自の特許技術でマット状に仕上げて、首都圏の屋上緑化や全国のガーデニング愛好家に提供している。

全国の優れた環境活動を表彰する低炭素杯2012のソーシャルビジネス部門で環境大臣賞を受賞するなど、環境(農業)ビジネスの先駆者として、国や東京農業大学から表彰されている。

弊社では3人の若い社員、つまり農業後継者が頑張っている。生産、出荷、営業を主務とする3本の矢

仲田 茂司

石川町・有限会社仲田種苗園  
代表取締役

だ。

杉山大輔君(21)は、地元技術者を、3年目で習得して石川町の高校から入社している。またミニバスケット3年目の生産主務だ。金鉱ボールや消防団など、地元脈のような若者で、私が積極的に参加している。まく聞き出せると、次から次へと商品開発のアイデアを披露してくれる。中学で春入社した。何事にも前向は野球部のエース、高校はきで、若い感性を会社のホ

## 若い農業後継者

ハンドボールで活躍したスチームページやフェイスブックで発信して、新旧の顧客の心を掴み、期待通りの営業効果も深い。

秋山徹君(23)は、短大が業効果を上げている。将来から入社して3年目だ。樹木は、会社の中でガーデニング好きで、早く一人前の植木フェを運営したいという夢職人になりたいという明確を持っている。バドミントンなビジョンを持っている。の有力選手で、現役の傍重機の運転など自分で目標ら、地元白河市の小学生たを決めて努力してきた結に教えている。

果、普通は5年かかる出荷技術を、3年目で習得して、このように3人とも、仕事で能力を発揮しながら、家族を愛し、地域活動にも積極的に参加している。

日本の農業を取り巻く環境は厳しく、それを基幹産業とする町村の消滅が現実のものとなっている。特に原発風評被害の影響が収束しない本県の現状は厳しい。しかし一方で、将来に希望を持ちながら頑張っている若い農業後継者がいる。彼らの声に耳を傾け、成長の機会を与えることにこそ福島県の未来がある。

# みんゆう随想

仲田 茂司

石川町・有限会社仲田種苗園  
代表取締役

2年前の今頃、弊社はユニック付きトラック3台とユニボー台を1晩のうちに盗まれた。約2カ月後、警察から連絡があって保管施設に行ったが、車体はバラバラにされてユニックとエンジンには無くなっていった。その無残な姿以上に、約20台の盗難車の中で、弊社のものは特に汚れていたことに私はショックを受けた。犯罪は海外への不法輸出を目的にしたプロ集団の仕事だが、4台目の被害は、盗難防止のために決めていた所定位置に戻さないなど、社内ルールが緩んでい

たことも原因となった。

この被害は経営を圧迫したが、私はまず5Sを開始することにした。整理(捨てる)、整頓、清掃、清潔、5Sの意義は、綺麗にする(ルールを守る)である。

以前の私の机上は、書類が30近く積み上げられていた。会社は社長の鏡とい

## 農業と5S

われるが、現場事務所や農場は、乱雑であった。まずは自分の机の整理と

習慣化から始めた。また5S活動に取り組んでいる株

式会社お菓子のさかいさん

の援助を受けながら、会社

が、シルバー人材の鈴木澄

弊社と同じ農業生産法人である山梨県中央市のサラダボウルさんが実践しているように、5SやITなど他業種で成果が上がっていることの基礎を導入することが、農業の生産性を高める。

弊社5Sの次のステップ

として、来月からは農場の大整理をする。約30畝の大規模経営なので、捨てる勇氣が必要だ。長期間回転しない植木などは捨てるか再生する。さらに自動車メーカへの組み立てラインのように、種播き↓育苗↓製品化↓出荷の流れをわかり易く配列して、生産性を上げる。私も社員と共に楽しみながら創意工夫したい。